

〈知的・自閉症・情緒障害教育〉

## 知的障害児の個々の課題達成を目指した自立活動の指導の工夫

### — ミュージック・ケアのプログラム分析表の作成と活用を通じた授業改善 —

沖縄県立大平特別支援学校教諭 宇 座 麻 紀

#### I テーマ設定の理由

特別支援学校は、視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者又は病弱者（身体虚弱者を含む。以下同じ。）に対して、幼稚園、小学校、中学校又は高等学校に準ずる教育を施すとともに、障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授けることを目的として学校教育法第72条において規定されている。具体的には特別支援学校の教育においては、障害のある幼児児童生徒を対象として、幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校（以下、「小・中学校等」という。）と同様に、学校の教育活動全体を通じて、幼児児童生徒の人間として調和のとれた育成を目指している。しかし、障害のある幼児児童生徒の場合は、その障害によって、日常生活や学習場面において様々なつまづきや困難が生じることから、小・中学校等の幼児児童生徒と同じように心身の発達の段階等を考慮して教育するだけでは十分とは言えない。そこで、個々の障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するための指導が必要となる。このため、特別支援学校においては、小・中学校等と同様の各教科等のほかに、特に「自立活動」の領域を設定し、その指導を行うことによって、幼児児童生徒の人間として調和のとれた育成を目指しており、教育課程上においても重要であり、指導を確実に行われなければならない領域である。

現任校の大平特別支援学校は、知的障害を主とする児童生徒277人（小中高等部）が在籍する沖縄県浦添市の学校である。今回対象とする小学部3学年の児童は16人おり、知的障害が中度で簡単な会話ができ、5歳程度の運動発達段階の児童から、知的障害が重度で、言語による指示理解や発語などのコミュニケーションが難しく運動動作も1歳程度の発達段階の児童など、幅広い実態の児童が在籍している。今年度は、自立活動の時間を週4時間設定し、児童の課題に合わせて指導計画を作成し、個別学習を2時間、小学部全体で取り組む身体の活動を1時間、学年合同でミュージック・ケア（加賀谷式音楽療法、以下M・C）を取り入れた指導を1時間行っている。

特別支援学校学習指導要領解説自立活動編（以下自立活動解説編）では、「個別の指導計画に基づく自立活動の指導は、個別指導の形態で行われることが多いが、指導の目標を達成する上で効果的である場合には、幼児児童生徒の集団を構成して指導することも考えられる。しかし、自立活動の指導計画は個別に作成されることが基本であり、最初から集団で指導することを前提とするものではない点に十分留意することが重要である。」と示されている。これらのことに留意した上で、知的障害の特性をふまえ、学校教育活動の様々な場面での指導が必要であると考え。津田望（2008）は、ソーシャルスキルやコミュニケーションスキル、感情の共有、自己表現等の指導を行う学びの場として集団での指導があると述べており、実態に合わせて人と関わる環境を設定することで般化にも繋がることを期待できると考える。

今回、学年合同で取り組むM・Cについては、主体的に参加できる児童や、指示や合図の理解が難しく、情緒面で集団参加に課題があり、教師の支援を受けて参加する児童等、双方にとって、参加や意欲など様々な面に変容がみられるという効果が期待される。そのため、養護・訓練の時代から県内特別支援学校で、M・Cが活用されてきているが、これまで型通りに指導する傾向があったことは否めない。そこで、養護・訓練が自立活動として改めて位置づけされている現在では、選曲や楽器・教具の選択、プログラムの構成、児童への支援方法や教師の指導と評価等を自立活動の視点から改めてM・Cを見直すことが必要であると考え。

そこで、自立活動の観点（6区分26項目）でM・Cの分析を行い、プログラム分析表を作成し活用することで、児童の実態・目標・評価が把握でき、児童への支援方法や教師の指導と評価の課題が明確化され授業改善することにつながり、知的障害児の自立活動の指導において個々の課題の達成を目指したいと考え、本テーマを設定した。

## 〈研究仮説〉

自立活動の観点（6区分26項目）でミュージック・ケアの分析を行い、プログラム分析表を作成し活用することで、児童の実態・目標・評価が把握でき、児童への支援方法や教師の指導と評価の課題が明確化され授業改善することにつながり、知的障害児の自立活動の指導において個々の課題の達成を目指すことができるであろう。

## Ⅱ 研究内容

### 1 自立活動について（養護・訓練から自立活動への変遷内容）

自立活動の前身である養護・訓練は、障害の状態を改善し、又は克服するための特別の領域として、昭和46年の学習指導要領の改訂により養護学校（当時、精神薄弱教育）小学部・中学部学習指導要領において各教科、道徳、特別活動と並んではじめて設けられた。昭和54年、平成元年の学習指導要領改訂では、区分や内容を整理し、追加して示すなどの改訂が行われた。その後、「国際障害者年」等の国際的な障害者に対する取組が進められてきたが、そのような取組の中で障害者の「自立」の概念が従前よりも広く捉えられるようになってきた。さらに、平成5年の障害者基本法の改正等を背景に障害のある人々を取り巻く社会的環境や障害についての考え方が変化してきた。また、幼児児童生徒の障害の重度・重複化、多様化等、実態が大きく変化してきていることを踏まえ、平成10年7月の教育課程審議会の答申を受けて平成11年の改訂で、養護・訓練から「自立活動」へと名称が変更された。古川勝也（2000）は、「それまで行われてきた養護・訓練が『自立活動』へ名称を変更された理由は、『養護』も『訓練』も受け身的な意味合いが強いと受け止められることがあること、また、この領域が一人一人の幼児児童生徒の実態に対応した活動であることや、自立を目指した主体的な取組を促す教育活動であることなどを一層明確にする観点から、『養護・訓練』から『自立活動』に改められた。」と述べている。

平成21年の現行学習指導要領の改訂で自立活動については、障害のある人々を取り巻く社会環境や障害についての考え方等に大きな変化が見られた。平成13年5月に、WHO（世界保健機関）の総会で障害のとらえ方「国際障害分類（ICIDH）」の改訂版として、「ICF（国際生活機能分類）」を採択し、その考え方を踏まえ、今後の自立活動の指導においては、生活機能や障害、環境因子等をよりの確に把握し、相互の関連性についても十分考慮することがこれまで以上に求められている。また、国内では平成15年度から「障害者基本計画」により、障害者本人の自己選択と自己決定の下に、社会のあらゆる活動への参加を一層促す施策が積極的に進められた。そして、平成18年12月、国際連合総会において「障害者の権利に関する条約」が採択され、障害者の権利や尊厳を大切にしつつ社会のあらゆる分野への参加を促進することが合意された。このような背景を踏まえ、環境を整えながら自立に向けて自立と社会参加につながる指導を行うことが重要であることが解説にも示されている。

### 2 知的障害のある子どもへの音楽療法について

知的障害のある幼児児童生徒は、音楽に興味関心が高いことから、授業で音楽が流れる中で教育活動を行うことが多い。知的障害者である児童に対する教育を行う特別支援学校における小学部音楽科の目標は、「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽についての興味や関心を持ち、その美しさや楽しさを味わうようにする。」と示されている。しかし、教科としての音楽科と自立活動で音楽を活用することは目標及び内容が異なる。

障害児に対して音楽療法等で臨床研究を行ってきた宇佐川浩（2007）が構築した「感覚と運動の高次化理論」では、障害児に対する3つのアプローチの中に、「聴覚—運動系のアプローチ」で音楽を用いた活動がある。音楽の特性を生かし、情動の発散と鎮静を伴いながら、さまざまな感覚器官にはたらきかけを連鎖させることができると述べている。さらに、宇佐川の考え方を継承して、実践研究を行っている土野研治（2014）は、音楽療法の目標設定には的確なアセスメントが要求されるとし、音楽活動を通して音や音楽の受容、音や音楽の好み、運動操作性、発声言語、情緒の発散、表出言語の特徴、対人関係等や発達段階との相関もとらえることが可能であると述べている。知的障害のある子どもへの音楽療法など音楽を活用した取り組みは、自立活動の視点が十分に組み込まれた内容となっており、児童生徒の個々の課題を達成する上でも有効な教育活動に成り得ると考える。その際には、児童生徒の課題を十分に把握し、集団の機能を生かした上で個々の発達を促進できるよう工夫をしていくことが重要であると考えられる。

### 3 ミュージック・ケア（加賀谷式音楽療法）について

今回活用するミュージック・ケア（加賀谷式音楽療法）は、加賀谷哲郎が1960年代に創案した集団音楽療法のメソッドを基本に、その方法と理論を宮本啓子が体系化したものである。それは、心身の発達に必要な情緒の安定や身体機能の維持改善、発話などに必要と考えられる刺激や動作に応じて作曲された、オリジナル曲を使用しているところに特徴がある。M・Cの定義は、「音楽の特性を利用して、その人がその人らしく生きるための援助をすることであり、子どもの場合は子どもの持っている力を最大限に発揮させ、発達の援助をすること」である。また、そのねらいは、「音楽の特性を利用して、対象者の心身に快い刺激を与え、対人的な質を向上させ、情緒の回復や安定をはかる、さらに運動感覚や、知的機能の改善を促し、対象者の心身と生活に好ましい変化を与える」こととしている。

音楽療法士など専門の知識を持ち、ピアノやギター等演奏技術も併せ持つ他の音楽療法とは違い、指導者が高度な楽器の演奏技術を持っていなくても、CDの曲に合わせて取り組むことができる点に特徴がある。M・Cには独自に考案されたメソッド（方法）に活用される音楽が100曲あまりある。楽曲の内訳は、基本動作を誘発するために特別に作曲されたオリジナル曲や、曲に合った基本動作がつけられているクラシック曲、軽快なリズムを楽しむためのポピュラー曲、楽器演奏を楽しむために同じパターンメロディが繰り返される行進曲、主に高齢者向けに歌唱等を促す唱歌や民謡などである。それらの楽曲には発達に必要と考えられる動き（基本動作）の中でも、道具を使いこなすために必要な運動、空間認知を獲得するための運動、ボディイメージを獲得するための動き、リズムに合わせた歩行や足の体操、いろいろな手の運動などがあり、音楽によって身体運動を誘発する力を利用したものである。また、擬態語（ギリギリ、クルックルッ、ポンポン等）を歌詞のように歌うことで、自然な発声も促すことができるように工夫されている。以上の内容をふまえて、県内特別支援学校や特別支援学級において、以前よりM・Cを活用した授業実践は行われてきた経緯がある。

### 4 自立活動及び音楽やミュージック・ケアの活用に関するアンケート調査

本校小中高等部教諭141人に対し、知的特別支援学校における自立活動の取り組み内容や悩み、今後のM・Cの活用に向けてどのような課題があるか確認するため、M・Cの認知度や実践等についてアンケートを実施した。

#### (1) 自立活動に関する主な質問内容：全員対象

①教職経験年数や自立活動の授業の担当の有無、②自立活動における活動状況、③授業に取り組む上での教師の課題、④授業の中で音楽療法やリトミック等での活用状況

#### (2) M・Cに関する質問内容：全員対象

①M・Cの認知度・実践度、②授業での活用希望の有無、③M・Cの研修経験や実施上の利点・難点、指導計画作成上のポイント、④指導で効果的な楽曲と理由

さらに、今年度本研究における自立活動の授業担当の小学部3年職員7人に対しては、研究仮説の検証の参考にするため、上記の内容に下記の質問を付加した。

#### (3) 付加質問内容：小学部3年職員7人

①担当児のM・Cの参加の様子、②担当児童の自立活動の課題（区分等）、③M・C活用上の課題、④自立活動の指導でのM・C等の音楽活用についての意見

### 5 知的障害教育における個別の指導計画と学習評価について

自立活動の指導に当たっては、個別の指導計画を作成することとされ、一人一人の障害による学習上または生活上の困難などを的確に把握し、各区分から必要となる項目を選定し、それらを相互に関連づけて指導内容を設定する。その際、「児童又は生徒の学習状況や結果を適切に評価し、個別の指導計画や具体的な指導の改善に生かすよう努めること。」（自立活動解説編）と示されている。

また、特別支援学校学習指導要領解説総則等編（以下総則等解説編）は、「基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育成するための指導を行うためには、評価の在り方が大切である。」と述べている。涌井恵（2015）によると、平成27年3月には、国立特別支援教育総合研究所の専門研究Bの研究で、「知的障害教育における組織的・体系的な学習評価の推進を促す方策に関する研究—特別支援学校（知的障害）の実践事例を踏まえた検討を通じて—」が成果報告書として出されている。そこには、「体系的な学習評価のPDCAサイクル概念図」が図示され、特に、「（子どもの）学習状況の評価」「指導の評価」「授業の評価」の3つが重なり合っている関係が整理されている。また、4つの柱として、①観点別学習評価の在り方、②学習評価を学習指導の改善に活かすための工夫、③学習評価を児童生徒への支

援に活用する工夫、④組織的・体系的な学習評価の推進について報告されている。現在、中央教育審議会においても、「教育目標・内容と学習・指導方法、学習評価の在り方を一体として捉えた、新しい時代にふさわしい学習指導要領等の基本的な考え方」が議論されている。

## 6 特別支援学校における指導方法や指導体制の工夫について

総則等解説編によると、教育課程実施上の配慮事項として、「学校の教育活動全体を通じて、個に応じた指導を充実するため、個別の指導計画に基づき指導方法や指導体制の工夫改善に努めること。その際、児童又は生徒の障害の状態や学習の進度等を考慮して、個別指導を重視するとともに、授業形態や集団の構成の工夫、それぞれの教師の専門性を生かした協力的な指導などにより、学習活動が効果的に行われるようにすること。」とある。個に応じた指導方法として、「個別指導の重視」と「授業形態や集団の構成の工夫」を例示しているが、「授業形態の工夫」とは、例えば、チーム・ティーチングによる個別指導、学級等の枠をはずしたグループ指導による授業などを指している。また、「集団の構成の工夫」とは、例えば、習熟度や障害の状態に応じたグループ編成などを指している。

## Ⅲ 研究の実際

### 1 自立活動及び音楽療法の活用についてのアンケート結果

本校小中高等部教諭 141 人に対し実施し、120 人より回答があった。(回収率 85.1%) 自立活動の授業に取り組む上での教師の課題として、主に課題設定や学習内容、指導方法、支援方法など、また、高等部においては、他職員との連携を課題とする人が多かった(図1)。授業の中での音楽療法やリトミック等の活用状況は、小学部の各教科等を合わせた指導(遊びの指導や日常生活の指導)での活用が多かった(図2)。次いで、小中高では各教科(音楽)や自立活動での活用が見られた。

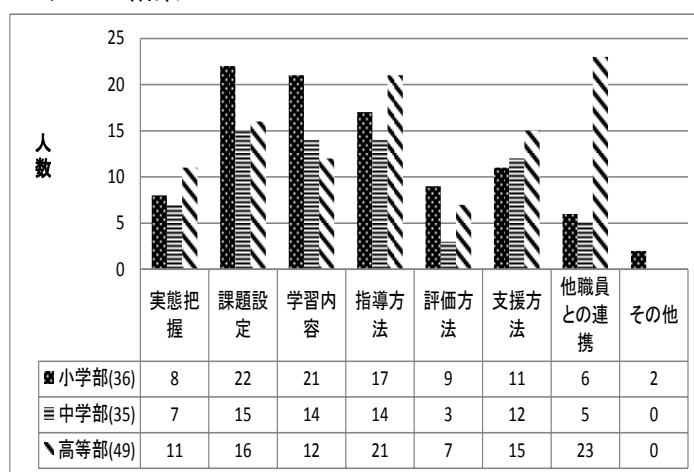


図1 自立活動の授業の課題

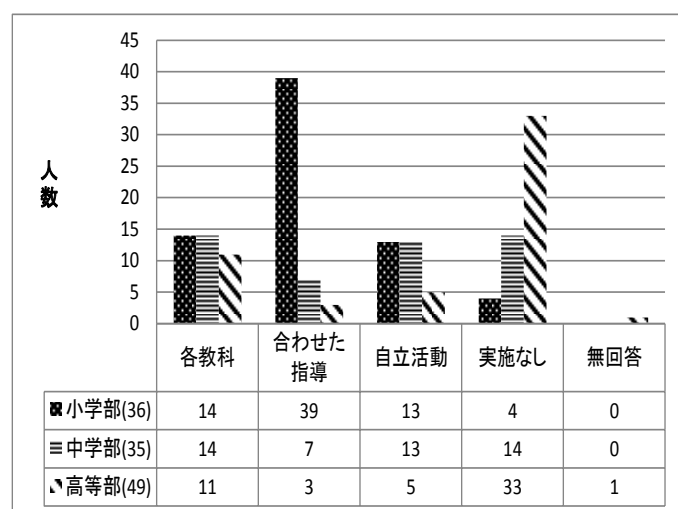


図2 音楽療法やリトミック等の活用

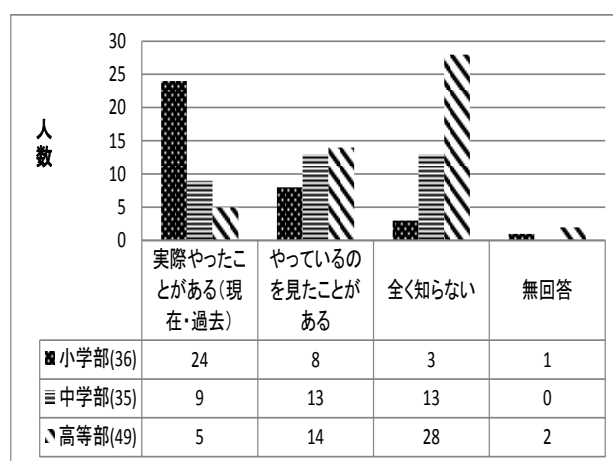


図3 M・Cの認知度・実践度

また、M・Cの認知度・実践度については、小学部では約6割強の人が現在又は過去に実施したことがあり、中高等部では実施しているのを見たことがある人が約3割前後、高等部では約6割が全く知らないという結果になっており、小学部での活用が目立ち、中高では音楽科教諭を中心に実施されていた(図3)。

さらに、M・Cでの利点としては、取り組みやすさや興味の持ちやすさ等、難点としては、児童生徒の実態に合わせた曲や教具の選定、支援の仕方、評価の仕方等が多かった(図4、5)。

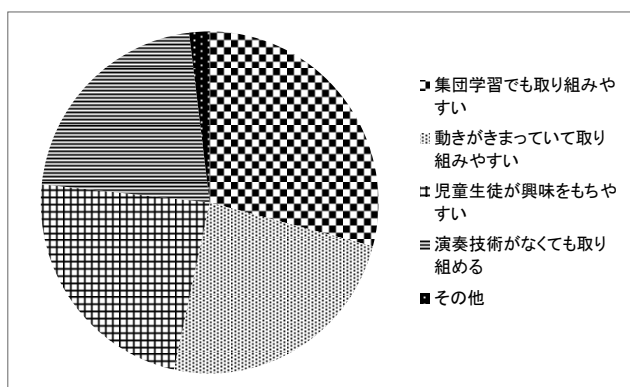


図4 M・Cでの利点

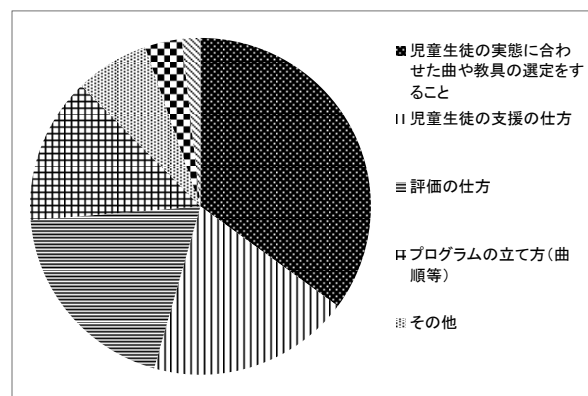


図5 M・Cでの難点

## 2 ミュージック・ケアのプログラム分析表

M・Cのねらいが、「音楽の特性を利用して、対象者の心身に快い刺激を与え、対人的な質を向上させ、情緒の回復や安定をはかる、さらに運動感覚や、知的機能の改善を促し、対象者の心身と生活に好ましい変化を与える」となっていることから、今回、特別支援学校の自立活動の観点6区分26項目によってプログラムの分析を行った。まずは、検証授業1回目の授業の流れに沿って、オリジナル・メソッドとなる各曲はもちろん、あいさつをかわすことやふりかえりの活動、模倣、合図、お手伝い、参加、関わりについて、自立活動の区分・項目で分類し、それに対するねらいと活動内容についての分析を行った(表1)。それによって、児童一人一人の実態把握と目標及び評価まで確認が行えた。

研究授業や検証授業2回目を実施していく中で、項目にある「活動内容」の見直しや学習活動における「育てたい力」の追加、また学習活動における「発表」についても分析を加えた。さらに、当初は評価の基準を、「◎できる」「○ややできる」「△できない」の3段階としていたが、「できる」という基準にも段階があるということに気づき、新たに「6一人でできる」「5言葉かけでできる」「4模倣してできる」「3教師の一部支援でできる」「2教師の全面支援でできる」「1取り組まない」の6段階とした。

表1 ミュージック・ケアのプログラム分析表(一部抜粋)

| ②児童の実態・目標・評価                                                                                      |                                                                 |                |                                    |                                                                             |   |   |   |   |   |   |   |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|----------------|------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| 自立活動の区分の略語(「健康の保持」→健、「心理的な安定」→心、「人間関係の形成」→人、「環境の把握」→環、「身体の動き」→身、「コミュニケーション」→コ)                    |                                                                 |                |                                    |                                                                             |   |   |   |   |   |   |   |
| *テンポ→速さ、リズム→反復する調子      評価:6一人でできる   5言葉かけでできる   4模倣してできる   3教師の一部支援でできる   2教師の全面支援でできる   1取り組まない |                                                                 |                |                                    |                                                                             |   |   |   |   |   |   |   |
| 学習内容                                                                                              | 学習活動                                                            | 自立活動<br>区分・項目  | ねらい                                | 活動内容                                                                        | A | B | C | D | E | F | G |
| 手をつかおう！                                                                                           | 「ギリギリ」                                                          | 心-(2)          | ・曲の躍動感を感じて、<br>楽しい気持ちになる。          | ・曲調で特に気持ちの変化はない。<br>・曲を聴いて、何らかの反応をする。<br>・曲を聴いて、楽しい気持ちになっている。               |   |   |   |   |   |   |   |
|                                                                                                   | 〈育てたい力〉<br><br>・上肢運動<br>・空間認知<br>・ボディイメージ<br>・概念認知<br>・言葉の理解・表出 | 人-(4)          | ・座って参加する。                          | ・座らない。集団から離れている。<br>・座ってるが、手は動かさない。<br>・座って手を動かす。                           |   |   |   |   |   |   |   |
|                                                                                                   |                                                                 | 環-(5)          | ・前後や曲のテン<br>ポ、リズムがわか<br>る。         | ・好きなように手を動かす。<br>・曲のテンポに合わせて、手を動かす。<br>・曲のリズムに合わせて、手を動かす。<br>・前後に手を動かす。     |   |   |   |   |   |   |   |
|                                                                                                   |                                                                 | 身-(1)<br>コ-(2) | ・合図に合わせ、教師<br>を見て、手を動かし、言<br>葉を言う。 | ・手を動かさない。<br>・手を自由に動かす。<br>・前腕を伸ばし、回外し、腕を体に引き寄せる。<br>・前腕を伸ばし、回内し、腕を体に引き寄せる。 |   |   |   |   |   |   |   |
|                                                                                                   |                                                                 |                |                                    | ・好きなきときに声を出したり、「ギリギリ」「ヨイショ」と言う。<br>・合図に合わせて声を出したり、「ギリギリ」「ヨイショ」と言う。          |   |   |   |   |   |   |   |
|                                                                                                   |                                                                 |                |                                    | ・好きなように手拍子する。<br>・リズムに合わせて手拍子する。                                            |   |   |   |   |   |   |   |
|                                                                                                   |                                                                 |                |                                    |                                                                             |   |   |   |   |   |   |   |

## 3 対象児童の実態

対象児童は、小学部3年生で16人。今年度4～9月までは、16人全員一緒に、週1時間自立活動の時間に、M・Cを取り入れた授業を行ってきたが、プログラムの分析表の検証を行うために、知的障害の程度や太田ステージの結果、これまでの学習時の様子もふまえ、A、Bの2グループに分けて指導を行う(表2)。検証授業は、Aグループの児童を対象として実施した。Bグループは、プログラムの内容を実態に合わせて変え他職員が実施し、筆者が分析表を活用し、ビデオ分析や記録確認を行った上で、授業の改善に取り組んだ。

表 2 対象児童の実態（グループ別）

| 項目                           | A グループの特徴（児童 7 人・教諭 3 人）                                                                                                                            | B グループの特徴（児童 9 人・教諭 5 人）                                                          |
|------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 知的程度                         | 中度                                                                                                                                                  | 重度                                                                                |
| 言語、コミュニケーション                 | 簡単な会話は可能（1～2 語文）<br>簡単な指示理解は可能                                                                                                                      | 発声やエコラリアがある、指示理解や発語は難しい<br>コミュニケーションをとるのは難しい                                      |
| 運動                           | 5 歳程度、模倣もある程度可能<br>主体的に体を動かせる                                                                                                                       | 1 歳程度、模倣は難しい<br>楽器を持ち鳴らすのは可能                                                      |
| 太田<br>ステージ<br>＜ステージ毎<br>の目標＞ | 6 名：3～4 歳の発達年齢（StageⅢ－2）<br>＜StageⅢ－2＞・対人関係・コミュニケーションを豊かにし、自発性や自我形成を促し、集団や社会場面での適応行動を形成すること                                                         | 8 名：1～1 歳半の発達年齢（StageⅠ－3）<br>＜StageⅠ－3＞<br>・人との愛着を高め、意欲を育て、言葉をはじめとするシンボル機能の芽生えを促す |
|                              | A グループ 1 人・B グループ 1 人：1 歳半～2 歳の発達年齢（StageⅡ）<br>＜StageⅡ＞<br>・言葉だけでなく、模倣、指さしなど多くの側面からシンボル機能の芽生えを促し、人への関心の芽生えをよい方向に育てること<br>（『太田ステージによる自閉症療育の宝石箱』より引用） |                                                                                   |
|                              |                                                                                                                                                     |                                                                                   |

#### 4 指導の実際

##### (1) 検証授業 1

##### ① 検証のポイント

児童の実態別のグループを編成し、自立活動 6 区分 26 項目の観点でプログラム分析表を作り、その上で実践することで、児童への支援や教師の指導と評価の課題を改善することを重点的に検証する。また、今回作成した M・C のプログラム分析表の活用が有効かどうかとも検証する。

##### ② 題材名 「音楽にのって、体をうごかさう！」

##### ③ 題材の目標

- ア 様々な音楽に合わせて活動することで情緒が安定する。（心理的な安定）
- イ 教師や友だちと適切な関わり方を身に付ける。（人間関係の形成）
- ウ 音の変化やボディイメージ、空間認知、注視能力等を身に付ける。（環境の把握）
- エ 様々な音楽や合図に合わせて、楽器を鳴らし、手足や全身を使って体を動かす。（身体の動き）
- オ 教師の合図を聞き、掛け声等元気よく声を出す。（コミュニケーション）

##### ④ 本時の目標

- ア 教師をよく見て、合図をよく聞いて、楽器を鳴らし、身体を動かす。（環境、身体）
- イ 教師や友だちと適切な関わり方を身に付ける。（心理、人間関係、コミュニケーション）

##### ⑤ 児童の実態と個人目標及び評価（授業全般）（表 3）と（個別）（表 4）

表 3 児童の実態と個人目標及び評価（授業全般に関するもの）

| 評価：◎できた ○ややできた △難しい（改善点） |                                                                                               |                                                                               |    |
|--------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|----|
| 氏名                       | 本時に関する児童の実態                                                                                   | 本時の個人目標                                                                       | 評価 |
| A                        | ・バチでマットを叩き、鈴を振ることができる。<br>・動きの模倣がある程度できる。<br>・教師の注意を引きたい時に、友だちにいたずらをして、授業に集中しないことが時々ある。       | ・音楽や合図に合わせて、友だちと一緒にバルーンを動かすことができる。<br>・授業の約束を守って行動しようとする。                     |    |
| B                        | ・動きの模倣はできた上で、自分で考えた動作を楽しむことがある。<br>・集団の周辺での活動から、教師の促しで集団への参加が増え、積極的に発表することまでできてきた。            | ・教師に促されて、合図に合わせた動作をすることができる。<br>・学級以外の先生や友達とも関わり、積極的に授業参加する。                  |    |
| C                        | ・曲に合わせて動作の模倣も増えてきた。<br>・発語は不明瞭だが、機嫌が良くて元気よく声を出すこともある。<br>・何らかの要因で気持ちが整わないときに、集団から離れて参加することもある | ・合図に合わせて声を出し、教師を見て動きを模倣する。<br>・気持ちを整えて、主体的に参加する頻度が増える。                        |    |
| D                        | ・教師の動きを見て、楽器等を鳴らすことができる。<br>・友だちや教師と関わるのが好きなあまり、いたずらをして集中しないことが時々ある。                          | ・教師の見本を見たり、合図を聞き体を動かし、楽器を鳴らす。<br>・授業の約束を守って行動しようとする。                          |    |
| E                        | ・動作や楽器鳴らしの動きを、よく覚えている。<br>・曲の終わりや授業の流れがわかり、教師が活動を継続したい場面でも、次の活動の準備をすることができる。                  | ・苦手な動作も積極的に取り組もうとすることができる。<br>・教師とやりとりしながらお手伝いをすることができる。                      |    |
| F                        | ・教師の合図を聞いて、楽器を鳴らすことができる。<br>・友だちに関わられることが多く、授業に集中しづらいことがある。                                   | ・教師の出す合図を注意して見たり聞いたりして、楽器を鳴らすことができる。<br>・教師の支援を受けながら、気持ちを切り替えて授業に参加する。        |    |
| G                        | ・曲に合わせて、自分で考えてバチでマットを叩き、バルーンを動かす。<br>・自分のこだわりを固執してしまい、活動に参加できないことがある。                         | ・合図に合わせてよく見て楽器を鳴らしたり、止めたりする。<br>・教師とやりとりをしながら、こだわりの固執と折り合いをつけて、授業に参加することができる。 |    |

表4 児童の実態・目標・評価（個別）（一部抜粋）

| ②児童の実態・目標・評価                                                                                            |                                                                                       |               |                          |                         |   |   |   |   |   |   |   |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|---------------|--------------------------|-------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| 自立活動の区分の略語(「健康の保持」→健、「心理的な安定」→心、「人間関係の形成」→人、「環境の把握」→環、「身体の動き」→身、「コミュニケーション」→コ)                          |                                                                                       |               |                          |                         |   |   |   |   |   |   |   |
| ＊テンポ→速さ、リズム→反復する調子      評価:6 一人でできる   5 言葉かけでできる   4 模倣してできる   3 教師の一部支援でできる   2 教師の全面支援でできる   1 取り組まない |                                                                                       |               |                          |                         |   |   |   |   |   |   |   |
| ✓ すでに達成している      本時の目標となる部分(灰色塗りつぶし)                                                                    |                                                                                       |               |                          |                         |   |   |   |   |   |   |   |
| 学習内容                                                                                                    | 学習活動                                                                                  | 自立活動<br>区分・項目 | ねらい                      | 活動内容                    | A | B | C | D | E | F | G |
| バルーン                                                                                                    | 「曲A」でバルーンをする。<br><br>・上肢運動<br>・目と手の協応<br>・空間認知<br>・概念認知<br>・言葉の理解・表出<br>・発声<br>・情緒の安定 | 心-(1)         | ・好きな歌を聴いて、情緒が安定する。       | ・曲を聴いても、特に変わりはない。       | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ |
|                                                                                                         |                                                                                       |               |                          | ・曲を聴いて、何らかの反応をする。       | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ |
|                                                                                                         |                                                                                       |               |                          | ・音楽を聴いて、うれしそうな表情を見せる。   | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ |
|                                                                                                         |                                                                                       |               |                          | ・バルーンに関心がない。            | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ |
|                                                                                                         |                                                                                       | 人-(4)         | ・みんなと一緒にバルーンを操作する。       | ・バルーンを周囲で見ている。          | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ |
|                                                                                                         |                                                                                       |               |                          | ・バルーンを操作する。(どんな様子か記述)   | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ |
|                                                                                                         |                                                                                       |               |                          | ・みんなと一緒にバルーンを操作する。      | ✓ | ✓ | 3 | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ |
|                                                                                                         |                                                                                       |               |                          | ・バルーンに関心がない。            | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ |
|                                                                                                         |                                                                                       | 環-(5)         | ・二人組でバルーンを操作する。          | ・バルーンを周囲で見ている。          | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ |
|                                                                                                         |                                                                                       |               |                          | ・教師と一緒にバルーンを操作する。       | 5 | 5 | 5 | 4 | 5 | 5 | 4 |
|                                                                                                         |                                                                                       |               |                          | ・友だちと一緒に布を操作する。         | 3 | 3 | 3 | 3 | 4 | 4 | 1 |
|                                                                                                         |                                                                                       |               |                          | ・好きなようにバルーンを動かす。        | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ |
|                                                                                                         |                                                                                       | 身-(1)         | ・上下左右(横)、曲のテンポやリズムが分かる。  | ・曲のテンポに合わせて、バルーンを動かす。   | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | 3 |
|                                                                                                         |                                                                                       |               |                          | ・曲のリズムに合わせて、バルーンを動かす。   | ✓ | 3 | 4 | 4 | 4 | ✓ | 3 |
|                                                                                                         |                                                                                       |               |                          | ・上下にバルーンを動かす。           | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | 3 |
|                                                                                                         |                                                                                       |               |                          | ・左右(横)にバルーンを動かす。        | 3 | 3 | 3 | 4 | ✓ | ✓ | 3 |
|                                                                                                         |                                                                                       | 身-(1)         | ・バルーンを掴み、合図に合わせて手を動かす。   | ・バルーンを掴むことができる。         | ✓ | ✓ | ✓ | 3 | ✓ | ✓ | ✓ |
|                                                                                                         |                                                                                       |               |                          | ・バルーンを掴んで動かすことができる。     | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ |
|                                                                                                         |                                                                                       |               |                          | ・バルーンを掴んで、上下に動かすことができる。 | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ |
|                                                                                                         |                                                                                       |               |                          | ・バルーンを掴んで、左右に動かすことができる。 | 4 | 4 | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ |
|                                                                                                         |                                                                                       | コ-(2)         | ・合図に合わせて、最後に「ヤー」と掛け声を言う。 | ・合図に合わせて、上下に動かすことができる。  | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | 3 |
|                                                                                                         |                                                                                       |               |                          | ・合図に合わせて、左右に動かすことができる。  | 4 | 4 | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | 3 |
|                                                                                                         |                                                                                       |               |                          | ・合図を聞いても、声は出さない。        | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | 1 |
|                                                                                                         |                                                                                       |               |                          | ・合図を聞いて、最後に声を出す。        | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | 1 |
|                                                                                                         |                                                                                       | コ-(2)         | ・合図を聞いて、最後に「ヤー」と言う。      | ・合図を聞いて、最後に「ヤー」と言う。     | 6 | 5 | 5 | 3 | ✓ | ✓ | 1 |
|                                                                                                         |                                                                                       |               |                          | ・合図を聞いて、最後に元気づけ「ヤー」と言う。 | 5 |   | 5 |   | 6 | 6 |   |

## ⑥ 本時の展開

検証授業1の展開を表5に示す。

表5 本時の展開（検証授業1）

| 時間    | 学習内容及び活動                                                                             | 指導上の留意点                                                                                                                                           | 備考                |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| 14:05 | 1 集合・バルーン<br>「曲A」 CD1<br>・曲と合図に合わせてバルーンを動かす。                                         | ・楽しい雰囲気です授業が始まるように声かけ等<br>雰囲気作りをする。（CT、ST1・2）<br>・強く引っ張っても破れないものを準備する                                                                             | アンプ<br>CD<br>バルーン |
| 14:08 | 2 はじめのあいさつ<br>・あいさつしたい人を募り、前に出てあいさつする。                                               | ・あいさつしたい人を募り、決定する。（CT）                                                                                                                            |                   |
| 14:10 | 3 やくそく（3つ）<br>・先生の話を聞く                                                               | ・約束カードを見せながら確認していく。（CT）<br>・座らせて、話を聞くように促す。（ST1・2）                                                                                                | 約束カード             |
| 14:12 | 4 手をつかおう！<br>「パンパン」 CD 2<br>「ギリギリ」 CD 3<br>「空の終列車」 CD 4                              | ・動作の前の合図をわかりやすく言う。（CT）<br>・一人一人じっくり顔を合わせて行う。（CT）<br>・手の動きをよく真似るよう声かけする。<br>・曲をかける前に列車、車のハンドル、馬の絵カード見せて動きを確認する。                                    | 絵カード              |
| 14:20 | 5 バチ&マット<br>「クシコスポスト」 CD 5                                                           | ・CTがよく見える位置に座るように配置する（ST1・2）<br>・楽器や教具の準備・片付けは丁寧にしよう伝える。（ST1・2）                                                                                   | バチ<br>マット         |
| 14:25 | 6 鳴子を鳴らそう<br>「口笛吹きと子犬」 CD 6                                                          | ・楽器を鳴らすだけでなく、全身の動きも意識させるような声かけをする。（CT）                                                                                                            | 鳴子                |
| 14:30 | 7 鈴とシャボン玉<br>「カルメン組曲」 CD 7<br>① 鈴で元氣よく（～2:30）<br>② 集中して鈴（～4:05）<br>③ 眠ってシャボン玉（～7:20） | ・曲想の違いを感じさせるような雰囲気作り（表情や声のトーン等）をする。（CT）<br>・行進の強弱をはっきりとする。（CT）<br>・集中してよく見るように声かけする。（CT）<br>・シャボン玉を追いかけるのはよしとする。<br>あまり激しい場合は、静かに関わるように声かけする。（CT） | 鈴<br>シャボン玉液       |
| 14:40 | 8 ふりかえり<br>・感想を発表する。友だちの発表を聞く                                                        | ・児童の感想を聞く。感想を促す。（ST1・2）                                                                                                                           |                   |
| 14:43 | 9 おわりのあいさつ                                                                           | ・あいさつしたい人を募り、決定する。（CT）                                                                                                                            |                   |



## ⑦ 検証授業1の結果と考察

児童を実態別の2グループに分けて指導を行うことで、学習内容が精選され、個別の課題に加え、特にコミュニケーションや集団適応についての課題に対応した指導を行うことができた。また、M・Cを自立活動の観点で分析しプログラム分析表を作成し、確認後実践することで、当初は児童の個別の評価に限って活用を考えていた。しかし、プログラム分析表を作成する中で、児童の実態把握や個別の目標も確認が可能となり、チーム・ティーチングを行う際の共通理解を図るツールとしても活用し授業を行うことができた。これは、昨今課題となっている「教育目標・内容と学習・指導方法、学習評価の一体化」にもつながっていることを実感できた。授業者の評価については、通常の指導案で使用している評価の項目では、細かな視点が足りないと考えられたので、次回に向け検討する。

## (2) 検証授業2

### ① 検証のポイント

前回同様、M・Cのプログラム分析表を活用しながら実践をし、個々の児童のどの部分の改善につながり、どのような力が育っているのかについて検証する。また、児童への支援や教師の指導と評価の課題をチームで解決し、授業改善を行うことを重点的に検証する。併せて、子どもの実態に合わせたプログラムを提供することにより、個に応じた自立活動の指導が行え、M・Cのプログラム分析表の活用の有効性も検証を行う。

### ② 授業改善について

前回の検証授業の後、授業担当者3人でプログラム分析表を参考に授業の流れを振り返り、児童や授業者の評価も行った。それをもとに、児童の主体的な活動場面を増やす視点で検討し次時の学習内容や児童への支援方法等を、表6の「授業改善シート」に記録し、授業改善を図ることとし、授業後に「評価・改善後の状況」を記入する。

また、授業者の評価の項目の見直しも行い、集団学習（個々への対応、課題達成の面）、児童の支援（言葉かけ＜指示、助言、褒める等＞、動作への支援、関わり方、その他）、場の設定（隊形、教材教具の配置、掲示等）、T・Tの連携（役割分担、児童への関わり、授業進行等）について、内容を増やした。これにより、チームの職員間において評価の視点を共通確認した。

表6 授業改善シート

| 前回の検証授業(12/1)の様子                                                        | 課題や話し合い事項                                                      | 改善点                                                   | 改善の意図(何を育てたいか)                                                        | 評価・改善後の状況                                                                  |
|-------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| 「曲A」<br>・大きいバルーン1枚をみんなで作って揺らした。                                         | ・人と合わせて行動することが苦手な子が多い。<br>・児童によって持つ持たないが出てくる。<br>・左右の区別がつきにくい。 | ・2人ペアになり、1～2mの布の両端を持って、曲に合わせて布を揺らす。                   | ・相手に同調して、行動等を調整する。(自己調整)<br>・概念認知(横、上下)<br>・言葉の理解(ゆらゆら、数唱等)<br>・粗大運動  | ・2人だと操作もしやすく取り組みやすい。上下、横など動作しやすい。<br>・児童同士、教師とのペアと人を替えることも良い。              |
| 「空の終列車」<br>・汽車、車のハンドル、馬の動作では、絵カードは見せたが特に何も持たずに体を動かした。                   | ・絵カードを見ただけでイメージができ、発語や動作をする子もいれば、あまり興味を持たずに逸脱する児童もいた。          | ・車のハンドルと馬(カウボーイ)の動作では、具体物の輪っかを準備して、手がかりとし、動作できるようにする。 | ・概念認知(左右、速さ等)<br>・言葉の理解(「シュッシュ」「ブーブー」「パカパカ」等)<br>・粗大運動(手を握ったり回して動かす等) | ・具体物を使うことで、イメージがすぐでき、児童の逸脱もなくなった。<br>・汽車、車、馬と児童が好きなものばかりでよい。               |
| 「クシコスボスト」<br>・マットをパチで叩く等の動作は、ほぼ覚えてきている。                                 | ・得意な児童が多い。<br>・人前での発表を苦手とする児童がいる。                              | ・1回練習した後、発表者を募り、みんなの前で発表してもらう。                        | ・成就感・達成感を味わわせ、自信を持たせる。<br>・発表する力                                      | ・積極的に発表する児童が多い。発表が苦手な児童も、自ら発表を希望し、前に出て得意な表情をしていた。                          |
| 「カルメン組曲」<br>・3パートでは、横になってシャボン玉を見て、授業の終わりを感ぜさせたかったが、逆に興奮してクールダウンにならなかった。 | ・シャボン玉は児童の動きを活発化させてしまうので、やらない方がよい。                             | ・部屋の電気も消して、横になって静かに過ごす。                               | ・情緒の安定(鎮静)<br>・自己調整力<br>・言葉の理解(「静かに」「寝る」等)                            | ・2回目の検証授業では、時間切れで実施できず。(学習内容の見直し、時間配分検討をする。)<br>・シャボン玉を要求する児童もいたが、概ね静かに寝た。 |
| 「ふりかえり」<br>・児童の感想を聞くにとどまる                                               | ・授業のやくそくを守れたかどうか確認する必要がある。                                     | ・感想とともに授業のやくそくを守れたかどうか、ふりかえる。(自己評価)                   | ・発表する力<br>・自己認識をして評価する力<br>・言葉の理解(話を聞く)                               | ・約束カードの確認をすることで、ふりかえりしやすくなっている。                                            |

## ③ 題材名、題材の目標、本時の目標、児童の実態と個人目標及び評価はともに検証授業1と同様とする。また、本時の展開は、授業改善点を参考にして、前回の学習内容を訂正して実施する。

## ④ 検証授業2の結果と考察

プログラム分析表の見直しを行い、育てたい力(児童に身につけさせたい動きや言葉の概念を



広げる視点等)について付加することができた。さらに、検証授業1に引き続き、M・Cのプログラム分析表を活用することで、児童の実態把握と目標、評価、児童への支援方法の視点もより明確になり、他職員との共通理解や連携もとやすくなった。また、授業者の評価の項目・内容を増やしたことで、チームとして共通の視点で授業後の振り返りができ、次時の学習内容の見直しにいかすことができた。この一連の流れがPDCAサイクルであり、分析表が授業と評価の一体化につなげるツールとして活用されたと考える。

## 5 仮説の検証と考察

研究当初の11月と2回目の検証授業後の1月下旬の2回、A、Bグループの担当者7人全員にアンケートを実施し、プログラム分析表や児童の変容等について調べた。

### (1) プログラム分析表について

今回、プログラム分析表を作成したことで、自立活動の視点や活動内容がどのような力を育てるための題材であるか明確になり、職員の感想より分析表の内容項目は概ね妥当であったと考えられる(表7)。自立活動の授業におけるM・Cの取り組みの課題としては、研究当初の

11月は支援の仕方や実態把握、目標、動き、評価がわからないという回答が多かったが、プログラム分析表を活用することにより、児童の現在の実態や次に目指すものが何なのか、どのような力を身につけさせるためにM・Cを活用するのかということがわかり、児童の変容を促す授業改善が行えた。具体的には、集団参加に課題がある児童への職員の見方や支援を統一することができるようになったという声があり、知的障害特別支援学校で常日頃から行われているチーム・ティーチングの重要性を改めて実感したという声もあった。

表7 プログラム分析表活用後の職員の感想

| プログラム分析表活用後の職員の感想                                                                                                   |  |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| ・職員で実態把握や支援の確認が密にできて、とてもよかった。                                                                                       |  |
| ・客観的な視点で実態把握や目標を立て、評価をすることができた。                                                                                     |  |
| ・細かな動きや認知面など、児童全員評価することで、把握する見方ができた。                                                                                |  |
| ・子どもを見る視点が絞られてよい。授業前にしっかり確認しておけば良かった。1つ1つの学習内容に細かい視点があることが勉強になった。                                                   |  |
| ・毎回チェックすると、児童の変化が見えてくるかと思う。                                                                                         |  |
| ・どのように目標を立てればいいのか(どこを目指すのか)、どの部分で評価できるのかを知るきっかけになった。M・Cは子どもが自分から楽しむことを大事にしている内容だと思うので、目標やどこを目指すのか等に迷ったときに、役立ちそうだった。 |  |

### (2) 児童の変容

授業への参加については、Aグループにおいては、11月には「部分的に参加」が1人であったが、1月には7人全員が「主体的に参加」となった(図7)。Bグループにおいては、11月には9人中5人が「支援で参加」であったが、「その他」の項目で評価されていた集団から離れて見ただけだった児童が、1月には部分的に参加や集団に入る様子が見られ、「部分的に参加」が4人、「主体的に参加」も1人に増えた。

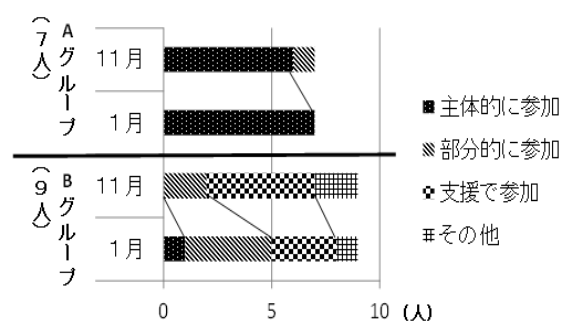


図7 M・Cを活用した授業への参加の様子

これは、表8の各教師からのグループ別児童の変容(授業の様子)の記述より、Aグループにおいては、授業後に児童や授業者の評価を行い、言葉かけや動作等の児童への支援方法や個人目標の達成状況、教材教具や学習内容等についてチームで話し合い、授業改善を行ったため、教師間の連携もとれ、実態に応じた支援が行えたことが考えられる。また、Bグループにおいては、グループの実態に合わせたプログラムを考え、教師とのふ

表8 グループ別児童の変容(授業の様子)

| A グループ                                                                                                                                                                                                                                                                                         | B グループ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師や友だちをよく見て模倣することが上手になった</li> <li>・自ら発表をしたり、声を出して参加することが増えた</li> <li>・集団からの逸脱が減り、意欲的な参加が増えた</li> <li>・準備や片付け等のお手伝いを積極的にした。</li> <li>・友だちへの関わりで不適切な行動だということを理解し、減ってきている。</li> <li>・曲に合わせた動作をよく覚えていて発表できた。</li> <li>・「反対」の言葉の意味を理解し動作も対応してできた</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・一つ一つの活動に楽しそうに参加し、意欲的である。</li> <li>・「持つ」「揺らす」等の教師の指示を理解し、活動できた。</li> <li>・好きな曲になると、教師の前に来て、期待して待っていた。</li> <li>・他者(友だちや教師)への不適切な行動が減った。</li> <li>・教師の膝の上で落ち着いて参加できるようになってきた。</li> <li>・活動を楽しみにし笑顔が多い。集団にいて教師を待っている。</li> <li>・名前を呼ばれた時の反応が早くなった。</li> <li>・動きを覚え、曲に合わせて自分で体を動かすことが増えた。</li> <li>・個々で違うことをしていたが、次第に場を共有できていた。</li> </ul> |

れあいを増やし、単純な動作の繰り返しの曲を選定し、楽器やフープ等動作を引き出す手掛かりとなるような教材教具を取り入れたことで、児童が参加しやすくなり、授業回数を重ねることで、授業の見通しも持ちやすくなったことが要因と考えられる。また、グループに分けて適正規模になり、教師が担当児や担当児以外との関わりが増え、個別の配慮がしやすくなり、教師間の連携がとりやすくなったことも要因と考えられる。

### (3) 自立活動の指導における個々の課題達成について

自立活動でM・Cを活用した授業において担当児童の課題の克服の必要な区分を6区分で選択させたところ、両グループともに11月と1月では変化があった。特に、Aグループでは、6区分のうち「環境の把握」の区分で活用が可能と考えられる児童が0人という選択であったのが7人全員に、「コミュニケーション」の区分においても2人が7人に増えた。Bグループでは、特に「コミュニケーション」が3人から8人に増えた。これは、プログラム分析表により、空間認知や概念形成、言葉の理解や表出などの視点が明確になり、個々の課題に合致し、指導と評価の項目として活用がしやすかったと考えられる。

すなわち、プログラム分析表に活動内容を自立活動の視点で分析した観点を入れたことにより、教師の自立活動の視点をひろげることができ、M・Cの活動内容が知的障害児の自立活動の指導において、児童の様々な区分の個々の課題に対応できるという可能性があること、その視点を示すことにより自立活動で活用することができるのではと考えられる。

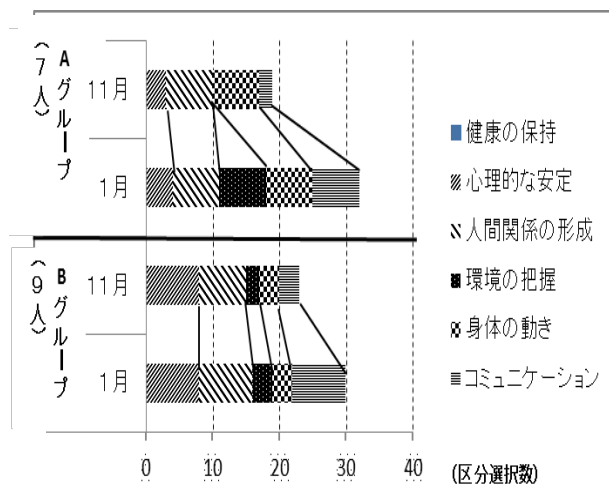


図8 M・Cにおける自立活動の課題

## V 成果と課題

### 1 成果

- (1) 校内アンケートにより、自立活動における悩みや音楽の活用、M・Cの認知度や実践度、活用上の利点や悩み等について現状を把握することができた。
- (2) 学習指導要領や参考文献等の研究により、自立活動の観点によってM・Cで活用する楽曲や授業構成内容を分析することができ、育てたい力も明確にしたプログラム分析表を作ることができた。
- (3) 作成したプログラム分析表を活用することによる利点
  - ① 授業における児童の実態把握と目標、評価をすることができ、活動内容をスモールステップで示すことにより、個々の次の課題設定の見通しができた。
  - ② チーム・ティーチングにおいて、各児童への具体的な支援方法を把握することができ、教師間の共通理解を円滑にするツールとなり、連携がとれた。
- (4) 検証授業等において、評価項目の見直しや授業改善シートの活用により、教材研究や児童への支援方法、学習内容の検討をチームで行い、PDCAによる授業改善につながった。
- (5) 知的障害児の自立活動の指導において、自立活動の視点を明確にしたM・Cの分析を行うことで、教師の視点をひろげることができ、個々の課題達成を目指した指導につながった。

### 2 課題

- (1) 自立活動のねらいとしては、M・Cの活用により、育てたい力（児童に身につけさせたい動きや言葉の概念を広げる視点等）に目を向け、教師がさらに意識して深化させた授業をする必要がある。
- (2) 今回のプログラム分析表を参考に、他の教科（音楽や体育等）や各教科等を合わせた指導における活用の検討が必要である。
- (3) 今回の研究では、授業で使う楽曲に限った分析であったが、今後分析の仕方について整理し、プログラム分析表を充実させ、さまざまな発達段階の児童を対象とする授業に活用していきたい。

## <参考文献>

- 特別支援教育の実践研究会編 2016 『特別支援教育の実践情報 No. 169 2016 年 12/1 月号』 明治図書
- 安藤隆男、小田浩伸 2015 『月刊 実践障害児教育 9 月号』「小中学校等における特別支援教育で自立活動がめざすところ」、「知的障害教育における自立活動の展開と課題」 学研教育出版
- 全国心身障害児福祉財団 2015 『発達に気になる子の子育て支援情報誌 第 13 号』 全国心身障害児福祉財団
- 全日本特別支援教育研究連盟編集 2015 『特別支援教育研究 No. 697』 東洋館出版
- 特別支援教育の実践研究会編 2015 『特別支援教育の実践情報 No. 168 2015 年 10/11 月号』 明治図書
- 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 2015 『特別支援教育 No. 59 平成 27 年秋』 東洋館出版社
- 土野研治 2014 『月刊 実践障害児教育 10 月号』「音楽活動を通して発達を促す音楽療法」 学研教育出版
- 宮本啓子・二俣泉編著 2014 『音楽療法を知る一その理論と実際一』 杏林書院
- 宮本啓子 2012 『ミュージック・ケア その基本と実際』 川島書店
- 全国心身障害児福祉財団 2011 『新しい自立活動の実践ハンドブック』 全国心身障害児福祉財団
- 全国特別支援学校知的障害教育校長会 2011 『知的障害教育における学習評価の方法と実際』 ジアース教育出版
- 永井洋子・太田昌孝編 2011 『太田ステージによる自閉症療育の宝宝箱』 日本文化科学社
- 遠山文吉 2010 『月刊 実践障害児教育 5 月号』「子どもにとって音楽は自己の表現方法」 学研教育出版
- 文部科学省 2009 『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部・高等部）』 海文堂出版
- 文部科学省 2009 『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（幼稚部・小学部・中学部）』 教育出版
- 東敦子・小堀あゆみ編 2008 『認知・言語・運動プログラム[発達障がい児のためのグループ指導]』 明治図書
- 宇佐川浩 2007 『障害児の発達臨床 I 感覚と運動の高次化からみた子ども理解』 学苑社
- 加藤博之 2007 『子どもの世界をよみとく音楽療法 特別支援教育の発達の視点を踏まえて』 明治図書
- 遠山文吉編著 2005 『知的障害のある子どもへの音楽療法—子どもを生き生きさせる音楽の力—』 明治図書
- 宮本啓子 2003 『だれでもどこでもいつでも楽しめる音楽療法ミュージック・ケア[実技編]』 宮本啓子音楽療法研究所
- 太下徳和 2002 『機能訓練の立場から見た ミュージック・ケアの動作分析』加佐ノ岬倶楽部音楽療法研究所
- 小林芳文・飯村敦子 2001 『自立活動の計画と展開 1 認知発達を育てる自立活動』 明治図書
- 小林芳文・飯村敦子 2001 『自立活動の計画と展開 2 身体・健康・動きを育てる自立活動』 明治図書
- 小林芳文・飯村敦子 2001 『自立活動の計画と展開 3 コミュニケーションを育てる自立活動』 明治図書
- 小林芳文・飯村敦子 2001 『自立活動の計画と展開 4 音楽・遊具を活用した自立活動』 明治図書
- 香川邦生・藤田和弘編 2000 『自立活動の指導 新しい障害児教育への取り組み』 教育出版
- 古川勝也 2000 『養護学校の教育と展望 No. 116』「今なぜ＜自立活動＞なのか—養護・訓練から自立活動へ—」  
身体障害者団体定期刊行物協会
- 五十嵐由紀 2000 『＜音楽を活用した取り組み＞について—主に自閉症児の音楽を活用した取り組みを中心として—』  
平成 11 年度国立特殊教育研究所長期研修報告書
- 宮本啓子 1986 『だれでも・どこでも・いつでも 加賀谷式集団音楽療法 実技編』 磁場の会
- 文部省 1975 『養護・訓練指導事例集—精神薄弱教育編—』 慶應通信株式会社
- ## <参考 URL>
- 国立特別支援教育総合研究所 専門研究 B 報告書「知的障害教育における組織的・体系的な学習評価の推進を促す方策に関する研究—特別支援学校（知的障害）の実践事例を踏まえた検討を通じて—」  
<http://www.nise.go.jp/cms/7,10812,32,142.html> (2015. 12 アクセス)
- 国立特別支援教育総合研究所 知的障害児の自立活動 <http://www.nise.go.jp/cms/13,900,45,181.html>  
(2015. 10 アクセス)
- 長野県立教育委員会 自立活動について  
[http://www.edu-ctr.pref.nagano.jp/kjouhou/seitoku/shiryoutokubetushien/tokubetu/tebiki\\_tokubetu\\_8.pdf](http://www.edu-ctr.pref.nagano.jp/kjouhou/seitoku/shiryoutokubetushien/tokubetu/tebiki_tokubetu_8.pdf)  
(2015. 10 アクセス)
- 奈良ドレミ研究会 音楽療法学会札幌大会自主シンポジウム資料 <http://www2t.biglobe.ne.jp/~doremi/index.htm>  
(2015. 10 アクセス)
- 奈良養護学校 教材共有ネットワーク アセスメントチェック [http://www.narayogo.jp/?page\\_id=107](http://www.narayogo.jp/?page_id=107)  
(2015. 10 アクセス)
- 文部科学省 幼児期運動指針 [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/sports/undousisin/1319192.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319192.htm) (2015. 10 アクセス)
- 山口県教育委員会 自立活動資料集  
<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cmsdata/d/4/c/d4cec84c8801c29be3b06ac8a1c84a3c.pdf> (2015. 10 アクセス)